

# ゆかり法施行へ

国民の期待、最高潮に。



映画「恋と嘘」



新聞

2037年  
10月6日  
火曜日



koiuso.jp

10月6日に公表された、国民ゆかり法(超・少子化対策法)に関する世論調査によると、ゆかり法への期待度は、前回の調査から18%上昇し、「ゆかり法に期待する」が91%で、過去最高を記録した。今回のゆかり法への期待上昇の背景には、幸福度96%という数字を残した先行試験の結果が影響しているように考えられる。

5日、ゆかり法先行試験の結果が公表された。先行試験では政府の科学システム、通称「科学の赤い糸」により選ばれた40人、20組が夫婦として5年間の結婚生活を行い、その生活の中で幸福度を調査した。調査の結果、20組、40人の平均幸福度は開始6ヵ月後は57%だったものの、試験終了後は39ポイント上昇し96%となった。調査に参加した女性(26)は、「巡り合った相手は本当に素敵な方でした。最初は「運命の赤い糸」による結婚への憧れを捨てられず、相手を受け入れられませんでした。でも、一緒に生活するにつれ、相手の魅力に惹かれました。今は「科学の赤い糸」は正しいと断言することができます」と話す。

さらに調査に参加した男性(35)も「もともと、科学で相手を探索するには抵抗がありました。だけど、今回出会った相手は素晴らしい方でとても幸せでした。これから、「科学の赤い糸」は多くの人を幸せにすると思います」と話す。

このように、先行試験の最終結果は幸福度96%となり、「科学の赤い糸」は大きな実績を残した。この実績がこれまで「科学の赤い糸」の正確性に半信半疑だった30〜40代の層からの期待を生み、過去最高の期待度につながったようだ。

いまだ自由恋愛を望む10代〜20代から、一定の反発はあるものの、多くの国民の期待を背負ったゆかり法が本日施行される。この先、ゆかり法がこの期待に答えるような成果をもたらすのか、今後の動向に注目が集まる。(虚構新聞)

## 日本の少子化に歯止め

近年、深刻な少子化を迎えていた日本に新しい兆しが見え始めてきた。今日から施行される「超・少子化対策法(ゆかり法)」によってこれまで進行していた少子化に歯止めがかかることが期待されている。

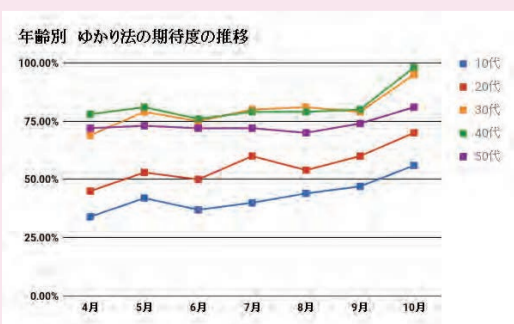
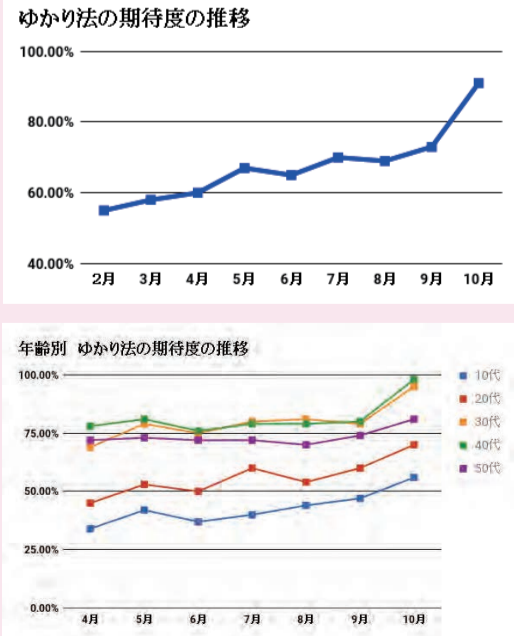
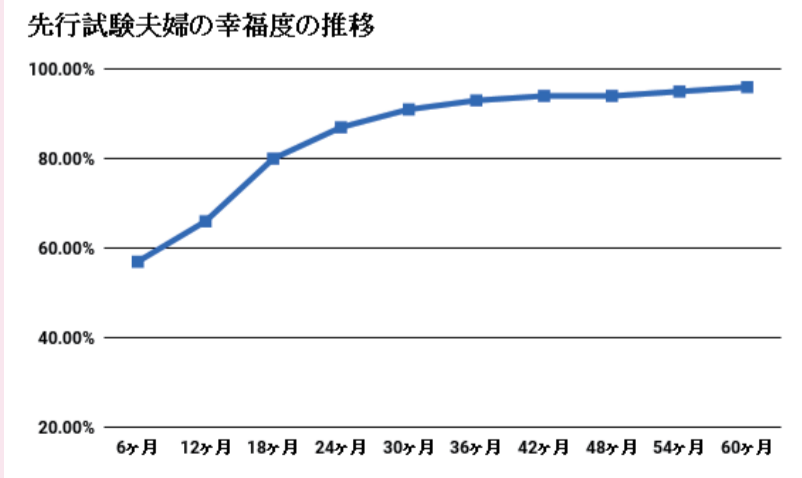
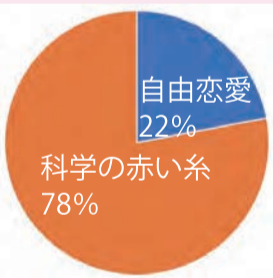
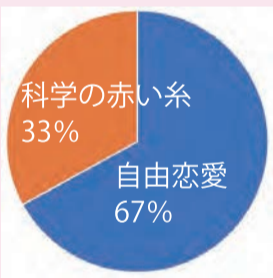
今から数十年前の2017年の日本では、少子化の深刻さがメディアに取り上げられ、数多くの政党が少子化を食い止めるための政策を掲げていた。しかし、どれも大きな成果を上げるものではなかった。

また、2017年頃の日本では、女性の社会進出が進み、恋愛に対して大きな時間を割くことが難しくなってきたという現状があった。恋愛において無駄な時間をかけることなく、自分にとって最適なパートナーと結婚したいと考える女性が存在し始めたのである。そして、ワークライフバランスという言葉が世の中に浸透し始めたのもこの時期である。少子化対策の意識が強まり、社会全体が結婚・出産を仕事と同じように優先することができるようになった。この結果、国民は恋愛に時間をかけたくなかったものの、結婚を意識するようになった。今現在の国民の結婚に対する考えは2017年が起源であった。

そんな時代を経た日本が辿り着いたのがこの度施行される「超・少子化対策法(ゆかり法)」である。このゆかり法によって、少子化対策だけでなく恋愛における時間の効率化を図ることが可能となった。虚構大学教授のA氏は「すでに行われている先行試験からも予測できるように、ゆかり法の効果は絶大である。今回の施行によってまず少子化対策を実行に移すことが可能になる。そして、恋愛における結婚までに費やす時間の軽減により、男女共に仕事や趣味など恋愛以外に時間を割くことができるようになるため、国民の生活に対する満足度も高くなるということが容易に予測することができる」と語った。

そして、日本の将来人口についてのデータが先日公開された。今現在、年少人口(0〜14歳)の割合は14%、生産年齢人口(15〜64歳)の割合は65%、老年人口(65歳以上)の割合は21%であるが、公開されたデータによると、これからの30年において、生産年齢人口の割合は変わらないものの、15年後には老年人口の割合を年少人口の割合が上回ることを予測される。恋嘘大学教授のB氏は、「今回のゆかり法の施行によって、年少人口比は増加し少子高齢化と日本が呼ばれる以前の日本の人口構成と変わらなくなるだろう」と述べている。

日本社会がゆかり法を受け入れていく一方で、自由恋愛を支持しゆかり法に反対を示している人も存在する。よって、施行直後の国と自由恋愛支持者との対抗が懸念される。しかし、日本が今回のような規模で少子化対策を行うことは初めてであり、実際にゆかり法の下に置かれることで、その効果の大きさに自由恋愛支持者が気付かされることも大いに期待できるため、今後の日本社会の動きに注目である。(C)



## 社会に浸透 国策成功か

ゆかり法の施行を受け、「結婚したい」と考える若者が、10年前に比べ大きく増加していることが判明した。政府によると「結婚したい」と考える若者は93%で前回の調査から10.5ポイント上昇。逆に「結婚したくない」と考える若者の割合は低下し、若い世代の結婚願望の上昇を裏付けた。調査は20代の未婚女性15000人、同じく20代の未婚男性15000人を対象に行われ、結婚したくない法が施行される10年前にも同じ規模で調査が行われており、「結婚したくない」と考える女性は前回調査に比べ8.5ポイント減少、男性は6.6ポイント減少しており、女性の減少が目立った。10年前はまだゆとり法が開始されておらず自由恋愛のみでの結婚であり、社会への女性進出が促進されていたことも影響して、多くの女性が結婚を夢みているわけではなかったことが推測される。しかし近年の幸福度調査による結果や、政府通知による結婚の際には政府による手厚いサービスを受けられることへメリットを感じるのか、多くの女性が結婚することへの意欲を見せたことになる。また、自由恋愛による結婚が政府通知による結婚か、どちらがいいのかも調査したところ、前回調査では圧倒的に自由恋愛を支持する若者が多かったが、今回の調査では政府通知による結婚を期待する若者が多いという結果になった。(グラフ参照)

この10年間で徐々にゆかり法への理解が進み、同時に「科学の赤い糸」は結果も出してきたため当然といえば当然の結果と言える。

この政策によって少子化に歯止めがかかるのか、長期的な目で見ていく必要がある。(R)